

---

# **2026年3月期 第2四半期 決算説明資料**

---

2025年11月7日(金)



証券コード:8550

# 目次

## 2026年3月期第2四半期決算の概要

---

1. 決算サマリー
2. 連結決算の概要
3. 単体決算の概要
4. コア業務純益の推移
5. 資金利益の推移
6. 預金残高の状況
7. 貸出金残高の状況
8. 預り資産の状況
9. 有価証券の状況
10. 経費の状況
11. 健全性の状況

# 1. 決算サマリー

【連結】	2024年9月期	2025年9月期	増減
経常収益	221億円	251億円	+30億円
経常利益	20億円	49億円	+29億円
親会社株主に帰属する中間純利益	14億円	43億円	+29億円

	2025年3月期	2025年9月期	増減
連結自己資本比率	10.10%	9.99%	△0.11

【単体】	2025年3月期	2025年9月期	増減
預金残高	3兆1,211億円	3兆1,548億円	+337億円
貸出金残高	2兆1,928億円	2兆4,181億円	+2,253億円
有価証券残高	3,763億円	4,089億円	+326億円
その他有価証券評価損益※	△81億円	△46億円	+35億円

	中間期(決定)	期末(予想)	合計(予想)
2026年3月期配当	12.00円 (7.00円)	12.00円 (7.00円)	24.00円 (14.00円)

## 決算の主なポイント

### ▶増収・増益

- ・資金利益の増加
- ・有価証券売却損の減少

### ▶保有する有価証券の評価損益改善

- ・2025年3月期に実施した大幅な有価証券ポートフォリオ見直しによる効果

※金利リスク低減を目的とする金利スワップによる  
繰延ヘッジ評価損益含む

### ▶中間配当金の増額

- ・当中間期の増益決算にともない中間配当金増額を決定
- ・中間期の増益決算と、通期の業績予想の上方修正にともない、期末配当金も増額予想

・配当予想の変更は、2025年10月29日、開示済。  
なお、カッコ内は2025年5月9日公表時のもの。2

## 2. 連結決算の概要

### ○連結損益計算書(抜粋)

(単位:億円)

	2024年9月期	2025年9月期 (今回)	増減額	増減率
<b>経 常 収 益</b>	<b>221億円</b>	<b>251億円</b>	<b>30億円</b>	<b>13.5%</b>
資 金 運 用 収 益	130億円	172億円	42億円	31.6%
( 内 、 貸 出 金 利 息 )	108億円	141億円	33億円	30.9%
( 内 、 預 け 金 利 息 )	7億円	17億円	10億円	133.9%
役 務 取 引 等 収 益	50億円	52億円	2億円	3.1%
有 価 証 券 売 却 益	13億円	2億円	△11億円	△83.1%
<b>経 常 費 用</b>	<b>200億円</b>	<b>202億円</b>	<b>2億円</b>	<b>0.5%</b>
資 金 調 達 費 用	5億円	34億円	29億円	549.2%
( 内 、 預 金 利 息 )	4億円	27億円	23億円	582.5%
役 務 取 引 等 費 用	20億円	20億円	0億円	2.6%
有 価 証 券 売 却 損	40億円	4億円	△36億円	△88.6%
営 業 経 費	113億円	118億円	5億円	3.9%
不 良 債 権 处 理 費 用	8億円	9億円	1億円	13.7%
<b>経 常 利 益</b>	<b>20億円</b>	<b>49億円</b>	<b>29億円</b>	<b>142.2%</b>
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益	14億円	43億円	29億円	195.4%

※有価証券売却益および売却損＝国債等債券売却・償却、株式等売却によるもの

#### ▶経常収益

貸出金利息や預け金利息等の資金運用収益が増加したこともあり、前年同期比30億円増加しました。

#### ▶経常費用

有価証券売却損の計上が減少しましたが、預金利息や営業経費の増加等により、前年同期比2億円増加しました。

▶この結果、経常利益49億円、親会社株主に帰属する中間純利益43億円を計上しました。

### 3. 単体決算の概要

#### ○単体損益計算書(抜粋)

(単位:億円)

	2024年9月期	2025年9月期 (今回)	増減額	増減率
経 常 収 益	197億円	223億円	26億円	13.2%
資 金 運 用 収 益	130億円	172億円	42億円	31.8%
( 内 、 貸 出 金 利 息 )	107億円	141億円	34億円	31.2%
( 内 、 預 け 金 利 息 )	7億円	17億円	10億円	133.9%
役 務 取 引 等 収 益	44億円	45億円	1億円	0.9%
有 価 証 券 売 却 益	13億円	2億円	△11億円	△84.4%
経 常 費 用	179億円	177億円	△2億円	△0.6%
資 金 調 達 費 用	4億円	33億円	29億円	580.2%
( 内 、 預 金 利 息 )	4億円	27億円	23億円	582.5%
役 務 取 引 等 費 用	21億円	21億円	0億円	2.8%
有 価 証 券 売 却 損	40億円	4億円	△36億円	△88.5%
経 常 費	108億円	114億円	6億円	5.7%
不 良 債 権 处 理 費 用	8億円	9億円	1億円	12.7%
コ ア 業 務 純 益 ( 除 く 投 信 解 約 損 益 )	39億円	46億円	7億円	18.0%
実 質 業 務 純 益	32億円	42億円	10億円	30.1%
業 务 純 益	38億円	43億円	5億円	11.7%
経 常 利 益	18億円	45億円	27億円	149.5%
中 間 純 利 益	13億円	41億円	28億円	202.5%

※有価証券売却益および売却損=国債等債券売却・償却、株式等売却によるもの

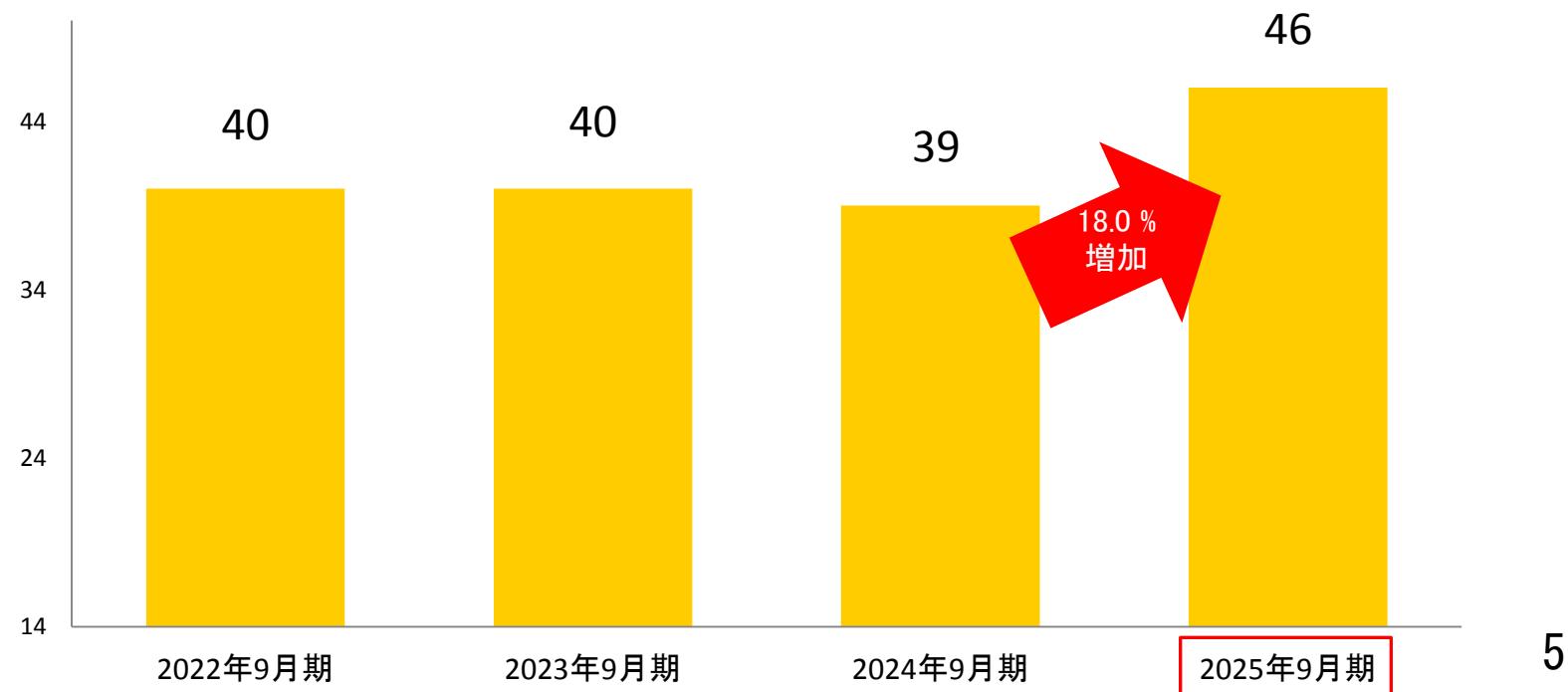
- 前述の連結決算と同様の理由により、増収・増益。
- 主に預金利息等の資金調達費用や経費が増加しましたが、貸出金利息や預け金利息等の資金運用収益の増加によりコア業務純益(除く投信解約損益)、実質業務純益ともに増益となりました。

## 4. コア業務純益の推移《単体》

- コア業務純益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の資金運用収益と、手数料等の役務取引等収益から得られる利益であり、銀行の本業収益力を表すものであります。
- 当中間期のコア業務純益(除く投信解約損益)は、預金利息等の資金調達費用や経費が増加しましたが、貸出金利息や預け金利息等の資金運用収益の増加が上回ったことから、前年同期比18.0%増加となりました。

コア業務純益(除く投信解約損益)の推移

(単位:億円)



## 5. 資金利益の推移《単体》

▶2024年3月以降の段階的な政策金利の引き上げに伴い、預金利息等の支払いが増加しましたが、貸出金利息や預け金利息等の増加が上回ったため、対前年同期比11.7%増加となりました。

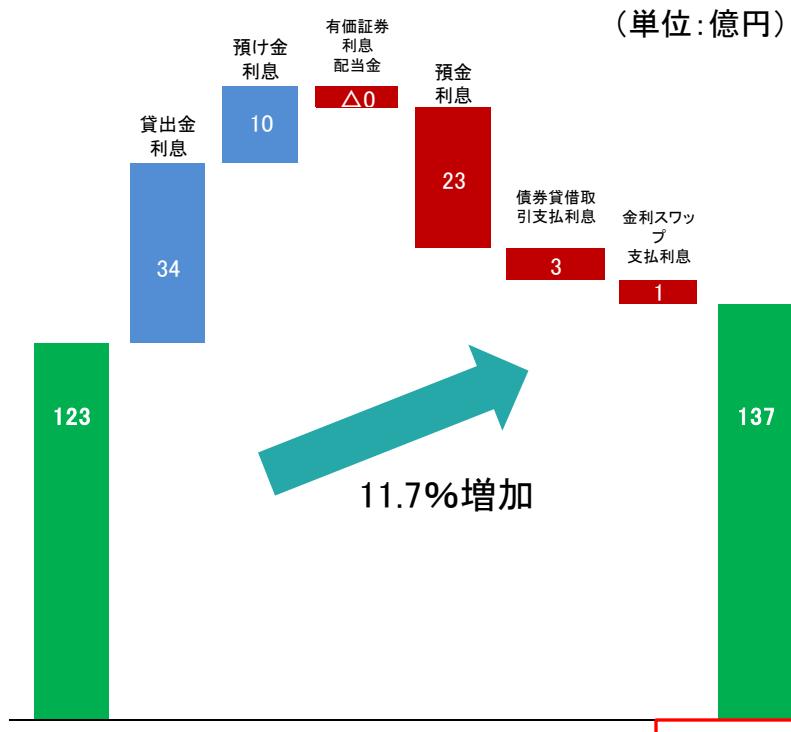
資金利益(投信解約損益除く)

	2024/9	2025/9	増減額	増減率
資 金 運 用 収 益	128億円	171億円	43億円	33.7%
貸 出 金 利 息	107億円	141億円	34億円	31.2%
有 価 証 券 利 息 配 当 金	12億円	12億円	△0億円	△1.2%
預 け 金 利 息	7億円	17億円	10億円	133.9%
資 金 調 達 費 用	4億円	33億円	29億円	580.2%
預 金 利 息	4億円	27億円	23億円	582.5%
債 券 貸 借 取 引 支 払 利 息	0億円	3億円	3億円	275.3%
金 利 ス ワ ッ プ 支 払 利 息	0億円	1億円	1億円	-
資 金 利 益	123億円	137億円	14億円	11.7%

\*1 有価証券利息配当金は、投信解約損益を除く

\*2 資金運用収益、資金調達費用の内訳については、主な項目のみを記載しております

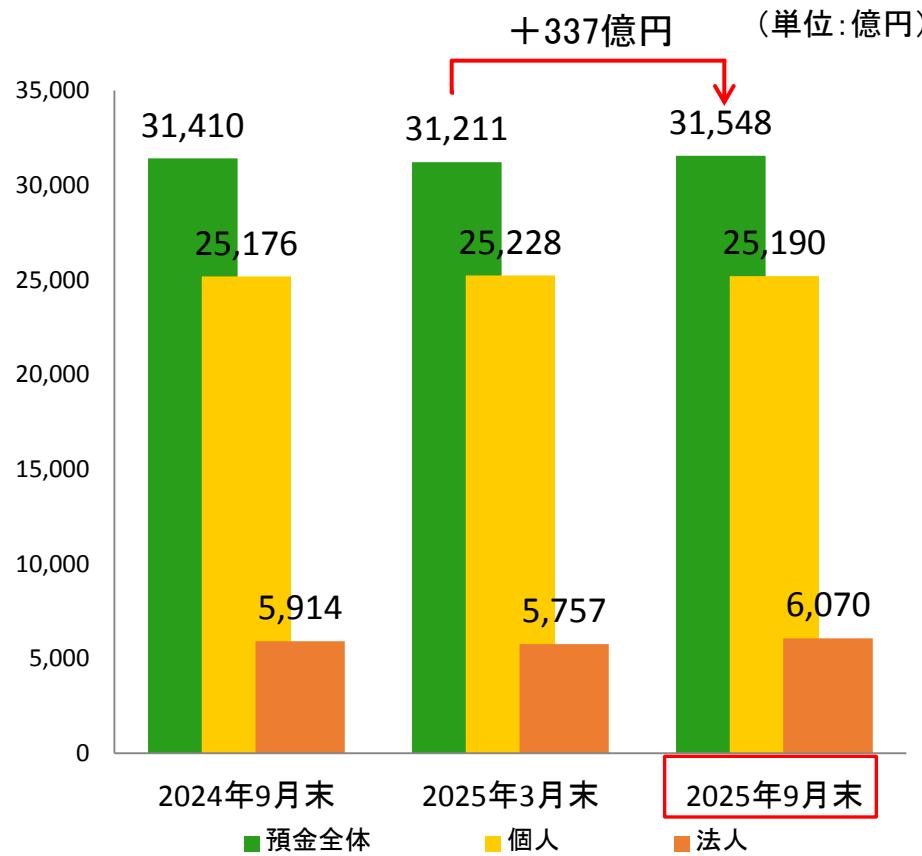
増減の内訳



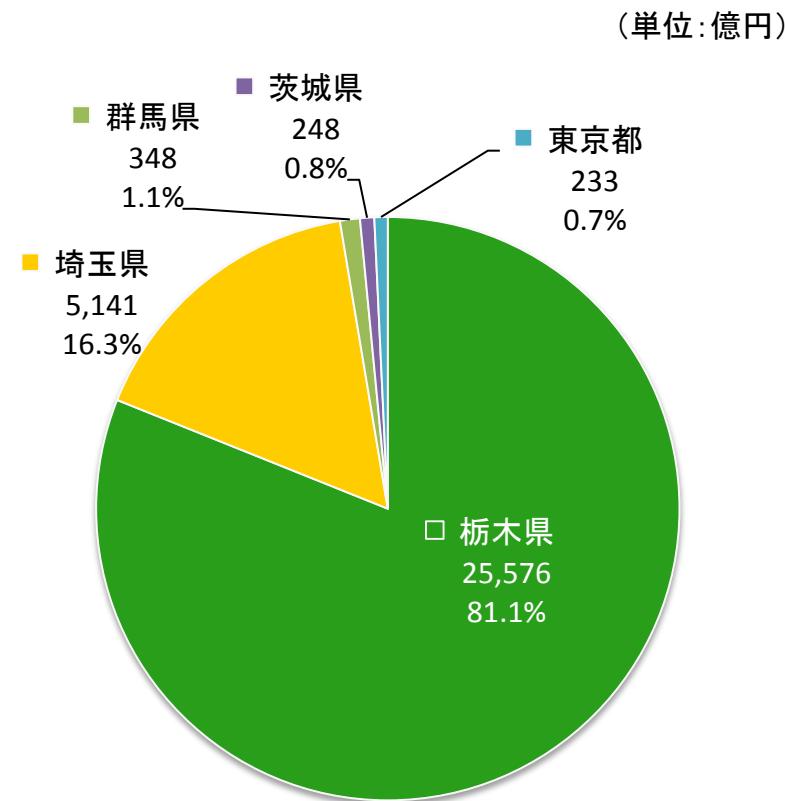
## 6. 預金残高の状況《単体》

- 当行は地域に根差した営業基盤を有し、当中間期は個人預金は減少しましたが、法人預金等の増加により預金残高は、2025年3月末比 337億円増加しました。
- 県別の預金残高は、栃木県内のお客様が81.1%を占めております。

預金残高(単体)の推移



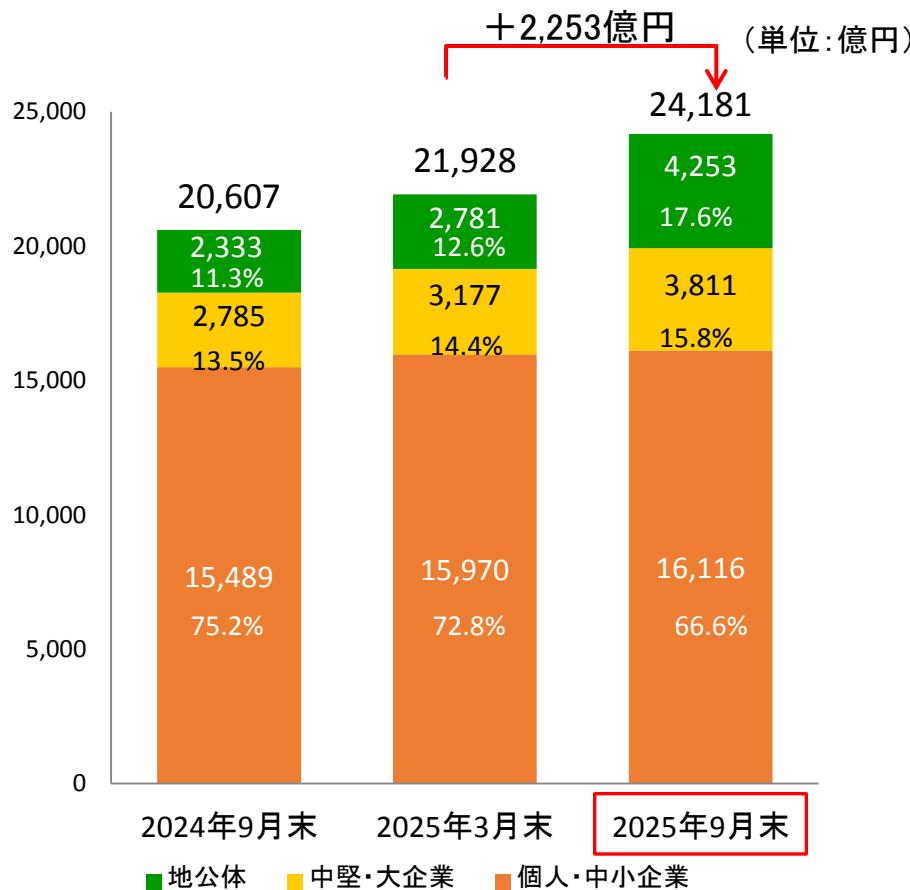
県別の預金残高(2025年9月末)



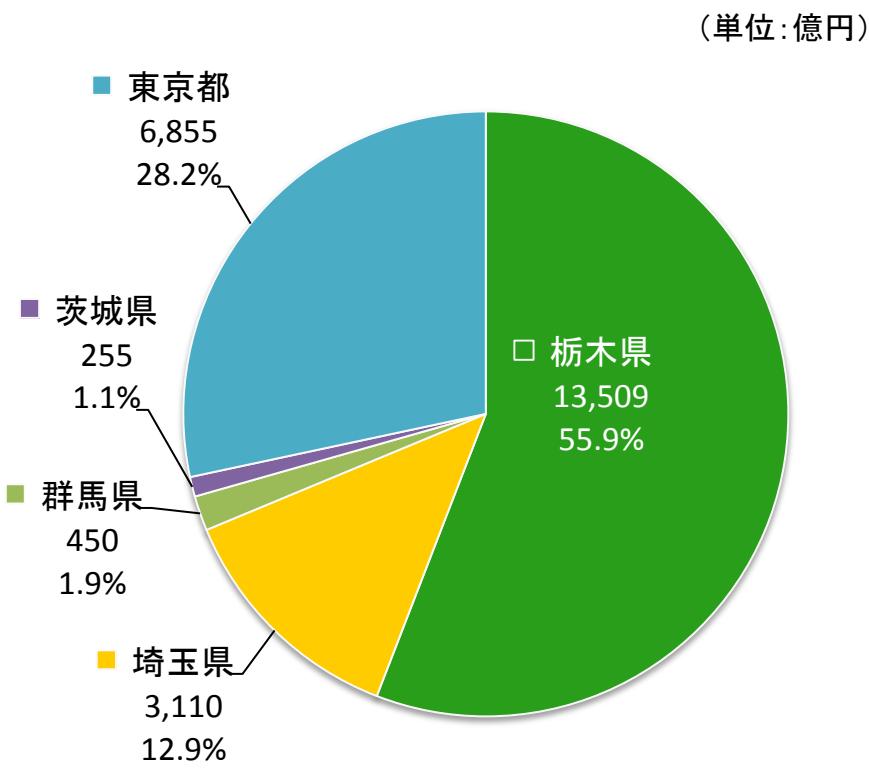
## 7. 貸出金残高の状況《単体》

- 貸出金残高は、2025年3月末比2,253億円増加しました。
- 2025年9月末の貸出金の残高は、個人・中小企業向けは146億円増加、中堅・大企業向けは634億円増加、地公体向けは1,472億円増加しました。
- 栃木県内の貸出が55.9%を占めており、栃木県内及び個人・中小企業向け貸出が中心です。

貸出金残高(単体)の推移

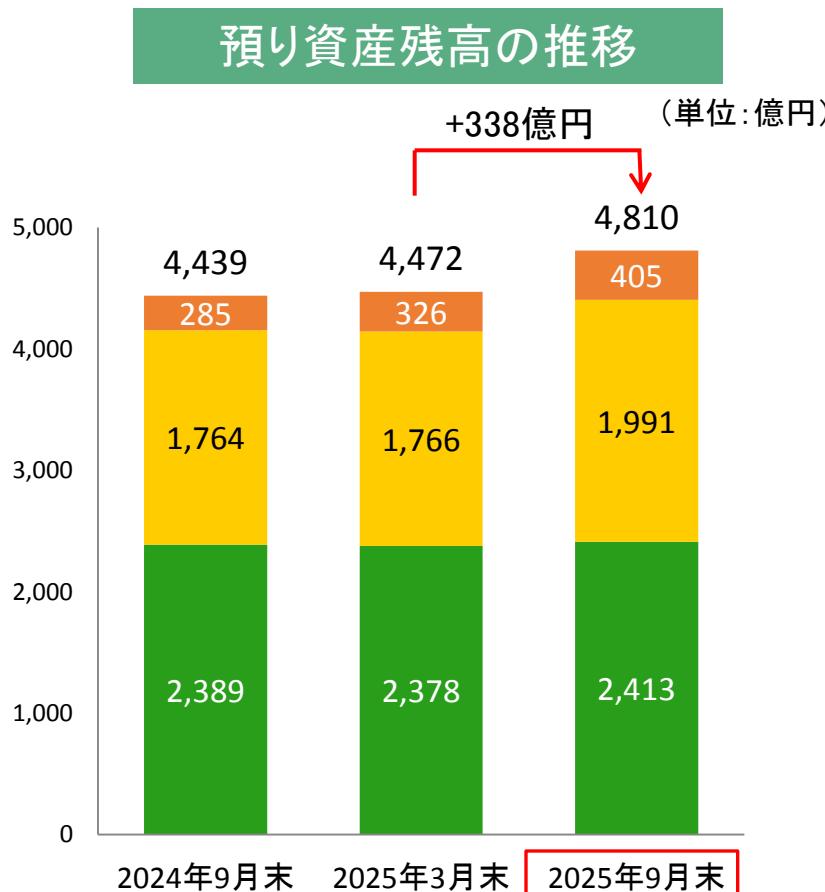


県別の貸出金残高(2025年9月末)



## 8. 預り資産の状況《単体》

▶預り資産残高はお客様本位の金融サービスの提供により2025年3月末比338億円増加しました。当行は今後ともお客様の将来の資産形成に繋がる「長期・積立・分散」投資への提案等を行ってまいります。



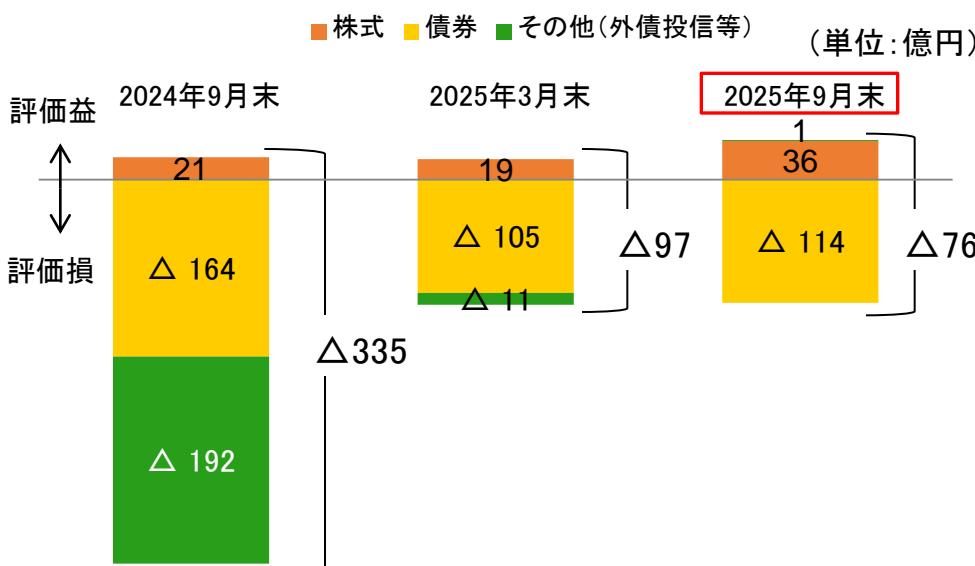
(億円)	2025/3	2025/9	増減額	増減率
預り資産	4,472	4,810	338	7.5%
公共債	326	405	79	23.9%
投資信託	1,766	1,991	225	12.7%
個人年金等	2,378	2,413	35	1.4%

(件数)	2025/3	2025/9	増減額	増減率
NISA口座	38,892	39,729	837	2.1%

## 9. 有価証券の状況《単体》

- ▶ 2025年9月期は、日銀の利上げ観測から国内金利は上昇したものの、保有債券の平均年限を短期化させたため、債券の評価損益への影響は僅小でした。一方で、株式相場の上昇により保有株式の評価益は増加し、金利スワップを含む総体の有価証券の評価損益は2025年3月末比35億円改善しました。
- ▶ 今後も国内金利の緩やかな上昇を想定しており、当面は金利リスクを抑制し、中短期債中心の再投資を計画しています。

### その他有価証券の評価損益



### 有価証券残高(2025年9月末)

	(億円)	2025/3	2025/9	増減額	増減率
有価証券合計	3,763	4,089	326	8.6%	
株式	118	135	17	13.8%	
債券	3,250	3,567	317	9.7%	
その他(外債投信等)	394	387	△7	△1.8%	

(億円)	2025/3	2025/9	増減額
金利スワップの評価益を含めたその他有価証券の評価損益	△81	△46	35

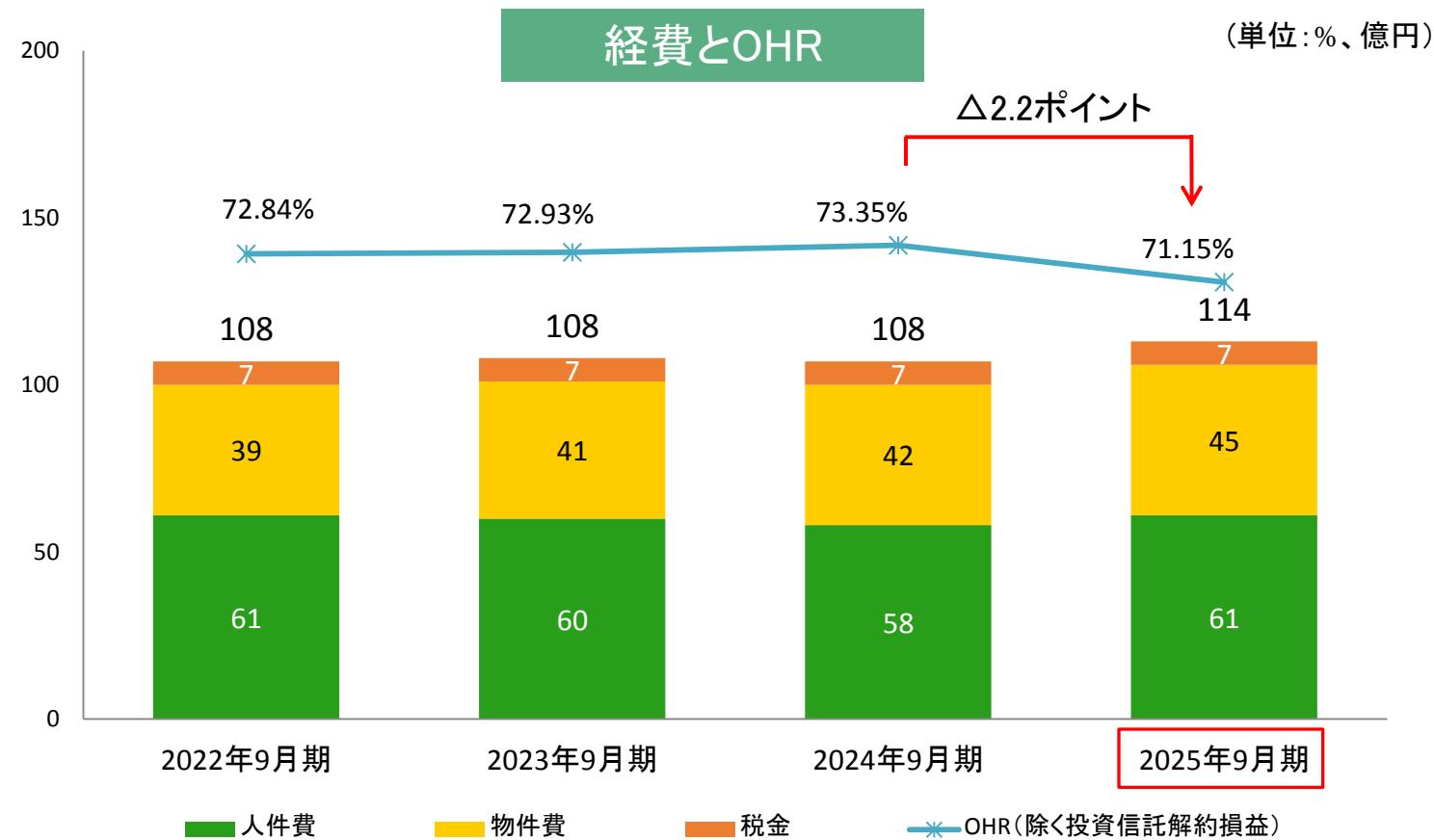
(年)	2025/3	2025/9
円債デュレーション	3.2	2.6

注: 2025年3月末は別途、金利スワップの評価益16億円あり  
2025年9月末は " 評価益29億円あり

## 10. 経費の状況《単体》

～ OHR(コア業務粗利益ベース) = 「経費」 ÷ 「コア業務粗利益」(除く投信解約損益) × 100 ～

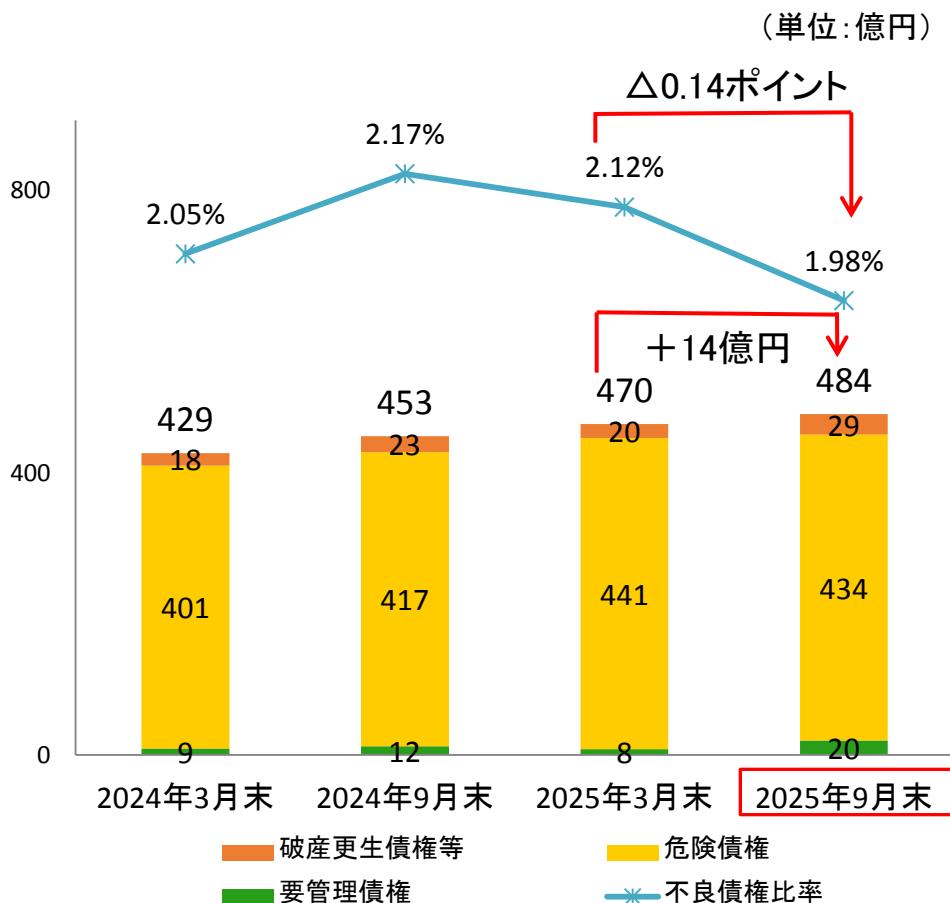
- OHR計算の分母となる「コア業務粗利益」は、預金利息等支払が増加したものの、貸出金利息等の増加により、対前年同期比増加となりました。(2024年9月期147億円→2025年9月期161億円)
- OHR計算の分子となる「経費」では、ベースアップや人材育成等の人的資本投資の増加、DX・システム投資等の成長投資の増加により対前年同期比6億円増加しました。
- その結果、当期のOHR(コア業務粗利益ベース)は前年同期比2.2ポイント改善しました。



## 11. 健全性の状況《単体》～(1)不良債権の状況～

▶金融再生法開示債権は2025年3月末比14億円増加しましたが、正常債権を含む総与信額も増加したことから、不良債権比率は同比0.14ポイント低下の1.98%となりました。  
今後も事業者支援に徹してまいります。

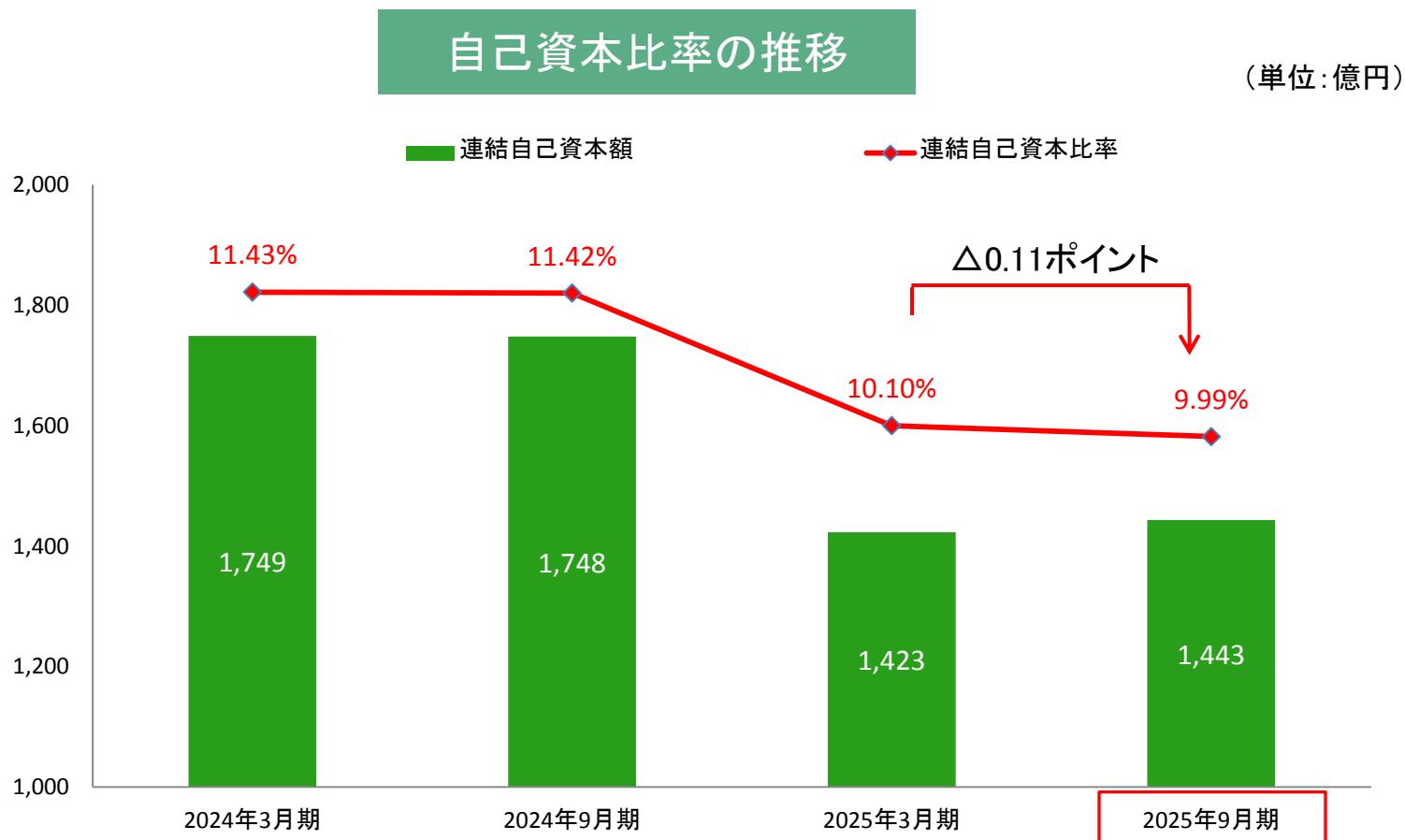
### 不良債権比率(単体)の推移



	(億円)	2025/3	2025/9	増減額	増減率
金融再生法開示債権	470	484	14	2.8%	
破産更生債権等	20	29	9	40.3%	
危険債権	441	434	△7	△1.7%	
要管理債権	8	20	12	160.9%	
正常債権	21,728	23,966	2,238	10.2%	
合計 (総与信額)	22,199	24,450	2,251	10.1%	

## 11. 健全性の状況《連結》 ~(2)自己資本比率の状況~

- 2025年3月期は、国内外の金利動向から保有する有価証券の入れ替えを加速させたことによる多額の実現損の発生により、赤字決算となつたことから自己資本比率は低下しました。
- 2025年9月期の連結自己資本比率は、貸出金のリスクアセットの増加等により2025年3月末比0.11ポイント低下の9.99%となりました。



※2025年3月期より、バーゼルⅢの最終化の基準を適用しております。

## 【参考資料】

新たな価値提供の実現に向けて

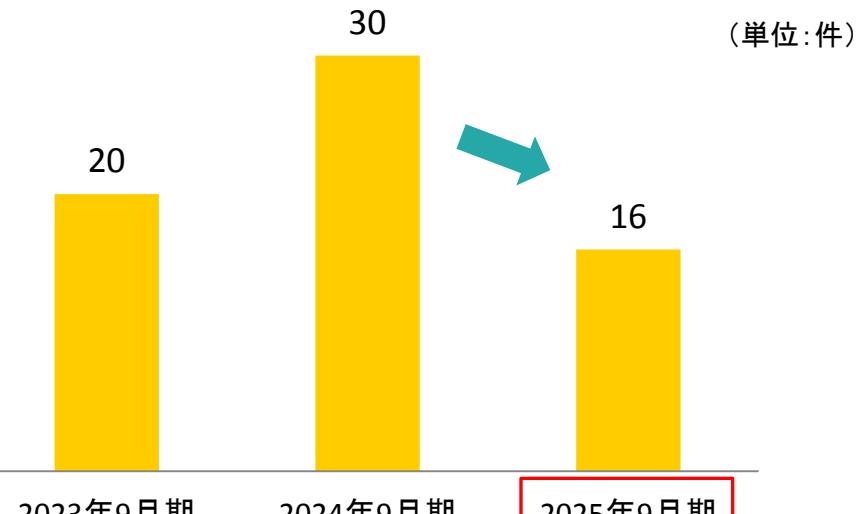
## 1. 新たな価値提供の実現に向けて《収益力強化》

2023年4月に第11次中期経営計画をスタートさせ、新たな価値提供の実現を成し遂げるため「徹底した地域への信用創造」と「既存の金融の枠組みを超えた新しい事業領域への挑戦」によって、グループ一体として課題解決に挑み、「持続可能な地域の未来」を地域の皆様とともに創造していきます。

基本戦略の一つである収益力強化の分野では、事業承継・M&Aに対する専門性の高いソリューションを提供するため、「とちぎの結び目（地元応援型M&Aサービス）」のほか、筑波銀行、東和銀行との三行での「さいたまの結び目」や、大東銀行の「ふくしまの結び目」、大光銀行の「にいがたの結び目」との連携を通じ、ワンストップで個人事業主や小規模企業のM&Aをお手伝いできる体制を構築しております。

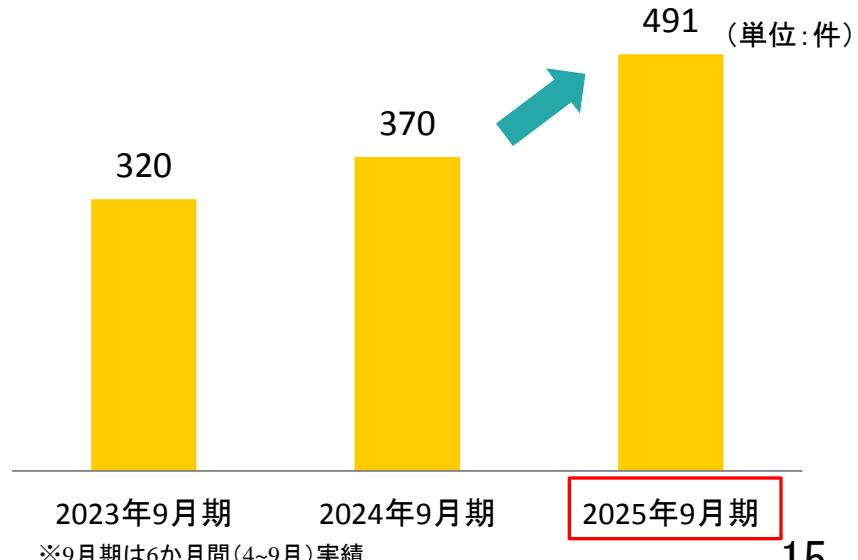
また、ビジネスマッチングを通して、取引先の様々なニーズに対し適切な情報やサービス、ビジネスパートナーの紹介を行っております。

《事業承継・M&A成約件数》



※9月期は6か月間(4~9月)実績

《ビジネスマッチング成約件数》

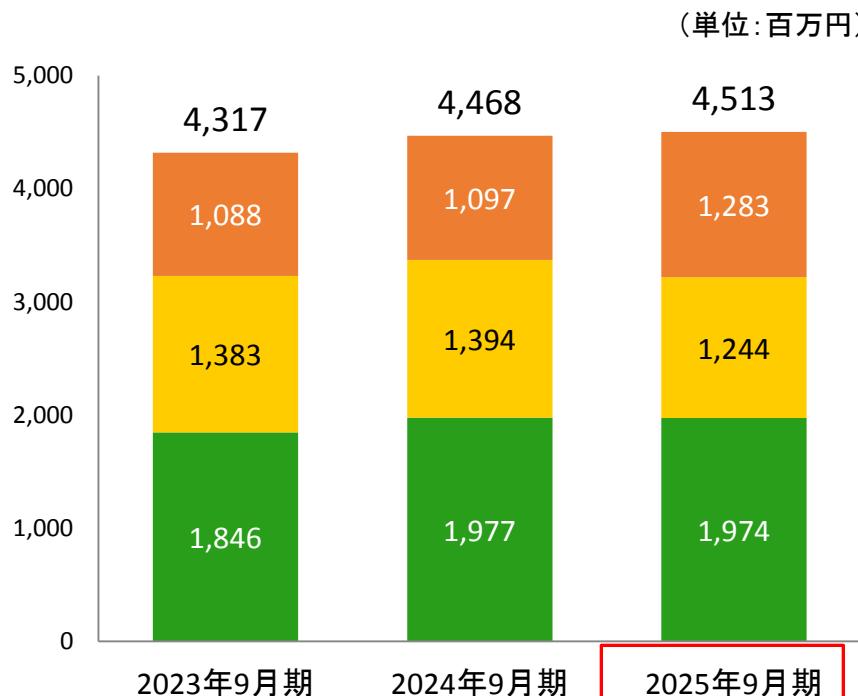


※9月期は6か月間(4~9月)実績

## 2. 新たな価値提供の実現に向けて《役務取引等収益の推移》

当行の強みである“人にしかできない業務（直接対面、間接対面チャネル）”に人的リソースを投下し、専門性の高いソリューションを提供します。役務取引等収益は、預金貸出業務手数料等の銀行業務の他、ビジネスマッチングや事業承継・M&A等に関するソリューション手数料、お客様の資産形成のサポートを行った結果得られる、預り資産手数料等で成り立っています。

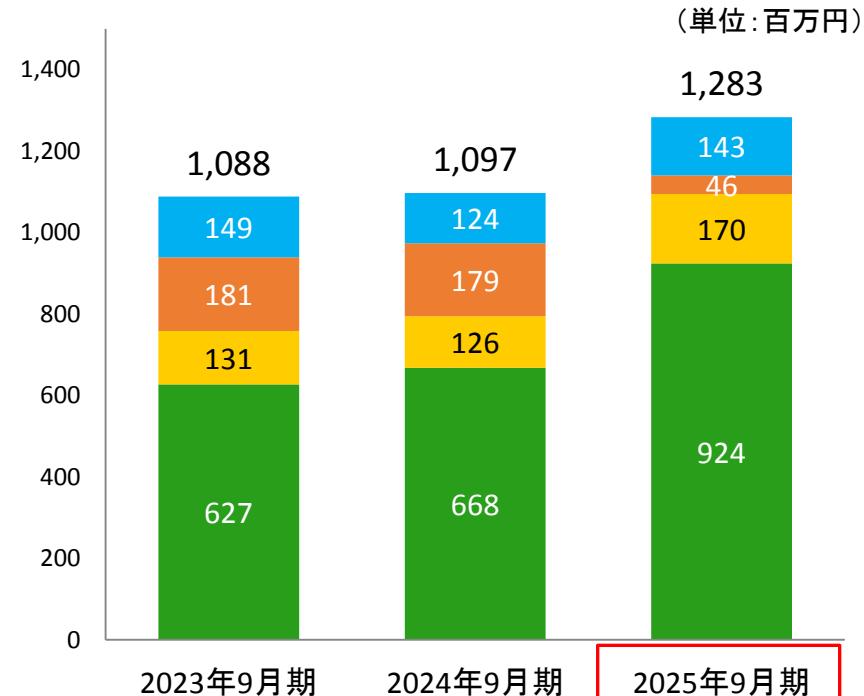
### 役務取引等収益の推移



- 預金貸出業務・為替手数料等
- 預り資産手数料等
- ソリューション手数料

※9月期は6か月間(4~9月)実績

### ソリューション手数料の内訳



- その他(私募債、シ・ローン等)
- ビジネスマッチング
- 事業承継 M&A
- 証券子会社仲介

※9月期は6か月間(4~9月)実績

### 3. 新たな価値提供の実現に向けて

#### 《インターネット専用支店「いちご支店」開設について》

当行は、2025年11月5日（水）、インターネット専用支店「いちご支店」を開設しました。

「いちご支店」を通じて、栃木県と他の地域をデジタルでつなぐプラットフォームとして栃木の魅力を発信し、栃木に縁やゆかりのある人をつなぎ、地域の皆様とともに、地域の活性化に貢献してまいります。

#### 【取扱業務】

普通預金、アプリ専用定期預金、カードローン、内国為替、投資信託 ※定期預金は12月より取扱開始予定

#### 【とちぎんSMART LOUNGE (VRサイト) 特設コーナー】



サポートキャラクター トチリン

特別キャンペーンを実施中！宇都宮ブレックスとのコラボやいちご狩り体験等の栃木の魅力をお届けするキャンペーンを実施予定！

#### 【「いちご支店」の特徴】

- ①全国どこからでも新規普通預金口座開設 ご来店不要。とちぎんアプリで日本全国どこからでも口座開設可能。
- ②印鑑・通帳レス お手続きを簡素化し、利便性を向上。
- ③24時間いつでもお取引可能 残高照会等、スマートフォンで24時間365日 照会可能。  
(保守・メンテナンス時間を除く)
- ④ATM利用手数料の優遇
- ⑤安心安全なセキュリティ 「公的個人認証 (JPKI)」、「FIDO認証」を活用し、本人確認書類偽造、パスワード盗難等といった不正防止・安全性向上を実現。

## 4. 新たな価値提供の実現に向けて 「とちぎんBizポータル」の提供開始について

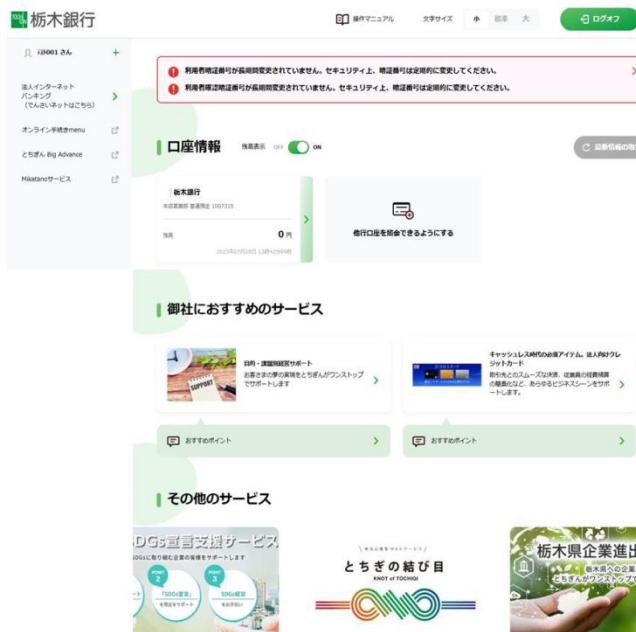
2025年9月1日（月）より「とちぎんビジネスダイレクト」を契約している法人・個人事業主のお客様向けに、「とちぎんBizポータル」（ポータルサイト）の提供を開始しました。

本サービスは、当行が提供する各種デジタル関連サービスの入口を統合したWEBサービスです。

セキュアな環境で決算書等の書類共有やお客様とのチャット機能を提供し、お客様の来店の負担や紙の手続きを削減します。また、他行口座照会機能をご利用いただくことでお客様の日々の資金管理・事務負担の軽減を図ります。

当行は、今後もお客様のデジタルによる利便性向上や事務効率化につながるサービスの拡充に取り組んでまいります。

### 【サービス画面イメージ】



### (1) 利用対象者

当行の事業者向けインターネットバンキング「とちぎんビジネスダイレクト」のご契約がある法人・個人事業主のお客様

### (2) 利用料

無料（「とちぎんビジネスダイレクト」のご契約が必要）

### (3) 主な機能

#### ① 当行/他行口座照会

（別途、他行でのインターネットバンキングが必要）

#### ② 対象書類（各種返済予定表や為替手数料計算書等）の閲覧・ダウンロード

#### ③ 決算関係書類や融資関係書類等の書類授受機能

#### ④ ビジネスチャット

#### ⑤ サービス連携（とちぎんビジネスダイレクト、Mikatanoサービス、とちぎんBigAdvance）

なお、本サービスの機能は順次拡大してまいります。



<本件に関する問い合わせ先>

経営企画部 : 秋元、齋藤、岩本

TEL 028-633-1455

FAX 028-634-3633